

育成すべき資質・能力の 三つの柱	大泉の自主・自律・創造	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
<b>知識・技能</b> 何を理解しているか 何ができるか	<b>興味関心をもち、 課題を発見する力</b>	全ての音楽活動に興味関心をもつことができない。	限られた音楽活動に興味関心をもつことができる。	音楽活動に興味関心をもち、演奏ができる。	幅広い音楽活動に興味関心をもち、意欲的に演奏をすることができる。	幅広い音楽活動に興味関心をもち、作曲者の意図を感じ取り演奏に生かすことができる。
	<b>自分の可能性を信じ、 やり抜く力</b>	音楽活動への自分の可能性を信じることが出来ず、取り組むことができない。	音楽活動への自分の可能性を信じ、取り組むことができる。	音楽活動への自分の可能性を信じ、練習することができる。	音楽活動への自分の可能性を信じ、計画的に練習することができる。	音楽活動への自分の可能性を信じ、計画的に練習し生き生きと演奏することができる。
	<b>挑戦する力</b>	全ての音楽活動に挑戦することができない。	限られた音楽活動に挑戦しようとするができる。	音楽活動に前向きに挑戦することができる。	音楽活動の課題を発見し、練習・演奏することができる。	音楽活動の自ら発見した複数の課題に対して、あらかじめ練習・演奏することができる。
<b>思考力・判断力・表現力等</b> 理解していること・できることを どう使うか	<b>解決に向けて 論理的に思考する力</b>	練習方法を自分で考えることができない。	練習方法を自分で考えることができる。	練習方法を計画的に考え、発表を意識して練習できる。	その曲想にあった、より良い練習方法を考え、良い発表を意識して練習できる。	自分が考えた練習内容や方法を他者に伝え、良い発表を目指し共に練習することができる。
	<b>自他の違いを認め、 思いやる力</b>	自分の能力を正しく把握することができない	自分の能力を正しく把握することができる。	他者の能力を認め、尊重することができる。	他者に助言を求めたり、他者に助言をしたりすることができる。	自他の違いを認めつつ、共に良い演奏を求め表現することができる。
	<b>学びを実践に移す力</b>	演奏の仕方を相手に伝えることができない。	演奏の仕方を相手に伝えることができる。	演奏の仕方を相手に伝えて、理解してもらうことができる。	全ての音楽活動を、実生活や実社会で生かす方法を考えることができる。	全ての音楽活動を、卒業後の実生活に生かし、音楽と共に生きようとするができる。
<b>学びに向かう力・人間性等</b> どのように社会・世界と関わり、 よりよい人生を送るか	<b>自ら学びを継続する力</b>	意欲的に練習しようとすることができない。	意欲的に練習しようとするができる。	音楽活動に対し意欲的に活動し、その学びを継続することができる。	全ての音楽活動に対して意欲的に学び、その学びを継続することができる。	自身の意欲的な音楽活動への学びを通して、集団に良い影響を与えることができる。
	<b>多様な人々と協働する力</b>	グループワークなどの練習に参加することができない。	グループワークなどの練習に参加することができる。	グループワークの練習に参加し、積極的に他者と関わろうとする。	多様な人々と協力しながら、よい演奏を目指し練習できる。	自己を含めた多様な人々の中心になって、音楽を創り、より良い発表に向けて演奏することができる。
	<b>自己実現に向かう力</b>	目標をもって音楽活動に取り組むことができない。	目標をもって音楽活動に取り組むことができる。	自ら目標を定めて、音楽活動に取り組むことができる。	自らの目標を達成するための練習方法を考え、よりよい演奏を目指して取り組むことができる。	他者からの助言を素直に聞き入れ、自分の練習方法を修正し、よりよい演奏を目指し取り組むことができる。